

## 議事要旨(2) 会計基準アドバイザー・フォーラム (ASAF) 電話会議の概要

冒頭、関口常勤委員より、2013年7月3日に行われた ASAF 電話会議について、説明資料 [審議事項(2)]に基づき説明がなされた。

説明に対する委員からの主な発言と、それらに対する事務局の回答が次のとおりである。

- ある委員より、次のような質問がなされた。
  - ・ ASBJ 以外に代替案を提示した団体等はあるのか。また、ASBJ が提案した「ASBJ の代替的アプローチ」について、IASB や他の ASAF メンバーから反応は如何か。
  - ・ IASB スタッフの説明では、再審議は 2013 年末までに終了する予定となっているようだが、IASB の公開草案に対して好意的な反応が多いと認識しているからなのか。これに対して事務局からは、次のような回答がなされた。
    - ・ 事務局で把握している限りでは、米国の複数の銀行が連名で、予見可能な期間と 12 ヶ月のうち長い方の期間で見積もられる信用損失を予想信用損失として認識するモデルを提案している。また、オーストラリア会計基準審議会 (AASB) は、IAS 第 39 号「金融商品：認識及び測定」において IBNR (Incurred But Not Reported) とされているものを Expected But Not Reported (EBNR) に改め、発生する可能性があるものも拾い上げるアプローチを提案している。
    - ・ ASBJ の代替的アプローチについては、アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ (AOSSG) で説明しており、AOSSG からのコメントレーターには、考えられる代替的アプローチとして、ASBJ と AASB の案の双方を含めることとされている。また、欧州財務報告諮問グループ (EFRAG) に ASBJ の代替的アプローチについて説明したところ、これに高い関心が示されていた。IASB に対しては、スタッフとは非公式に意見交換を行っているが、コメントレーターを提出したばかりであり、具体的な反応はこれからと考えている。
    - ・ 今後の予定については、IASB スタッフの説明では、年内に最終基準化する予定とされているが、所謂「相対的アプローチ」の部分についてはこれを支持していない関係者も少なくないと感じており、予定通りに進むかについては推移を見守りたい。
- ある委員より、ASBJ の代替的アプローチは IASB や FASB の公開草案で提案されているアプローチよりも優れた特長を有するので、引き続き IASB や他団体等に説明する等、働き掛けを行っていただきたいという発言がなされた。また、FASB の公開草案で提案されている全期間の予想損失を認識するモデルについて、米国の利用者はこれを支持していると説明されていたようだが、銀行監督当局がこれを支持しているとしても、投資家が広く当該モデルを支持していると言えるのか疑問がある、との意見が述べられた。これに対し事務局からは、FASB 関係者からは、単に「米国の利用者」と説明されていたので、これが誰を指すのかを含め更に分析したいという回答がなされた。

以上